

2023年2月期 第4四半期 決算説明資料



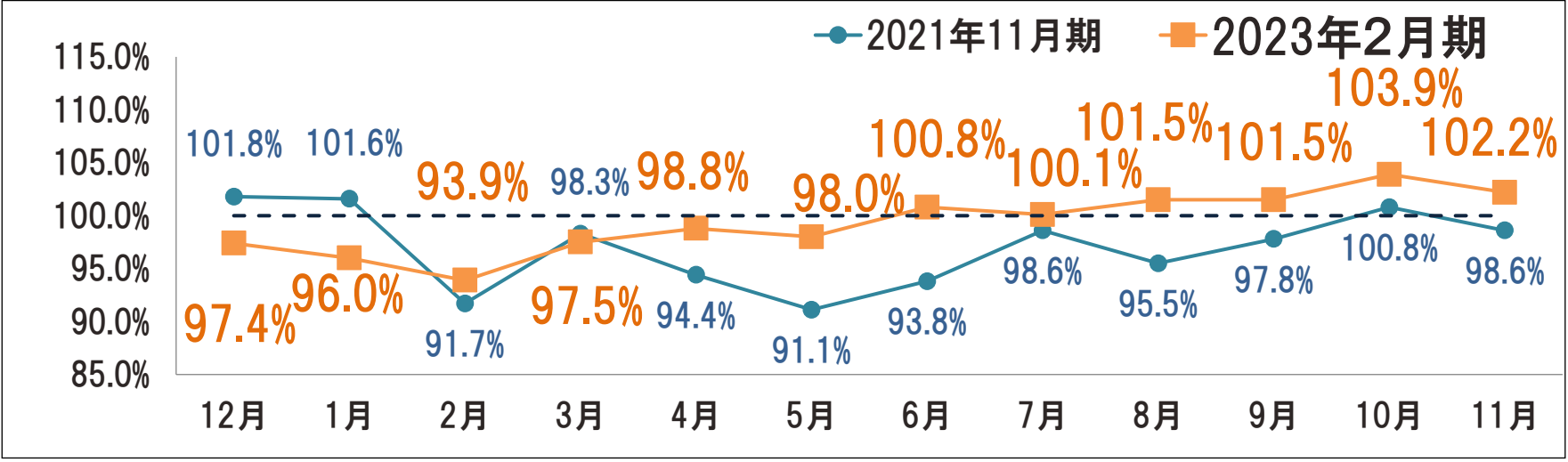
2023年1月12日

Can★Do

(証券コード:2698)

<https://www.cando-web.co.jp>

	プラス与件	マイナス与件
小売業界	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染者数が抑制され、個人消費の持ち直しが見られる ・イベント型消費の復活 	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な円安の進行 ・ロシア・ウクライナ情勢の長期化 ・エネルギー価格及び原材料の高騰 ・人手不足の顕在化
100円ショップ業界	<ul style="list-style-type: none"> ・インフレに対する生活防衛意識の高まりによる集客増 ・ネット販売業者の参入が困難 ・地域や商業施設からの期待値の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・他業界における低価格競争
当社	<ul style="list-style-type: none"> ・イオングループ参入によるシナジー効果への期待値の上昇 ・他価格帯商品の取り扱い拡大 ・Instagramを中心としたSNSにおける認知・露出向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・母店退店が多い ・原価高騰による品揃えの苦慮 ・競合との競争激化(出店余地の減少)



<p>2023年2月期 4Q</p>	<p>9月：新型コロナウイルス第七波がピークアウト</p> <p>10月：インフレ進行に伴う生活防衛意識の高まり イベント・旅行・インバウンドでの人流が回復傾向</p> <p>11月：新型コロナウイルス第八波とインフルエンザが 同時流行の懸念</p>
------------------------	---

連結損益計算書(年度同期推移)

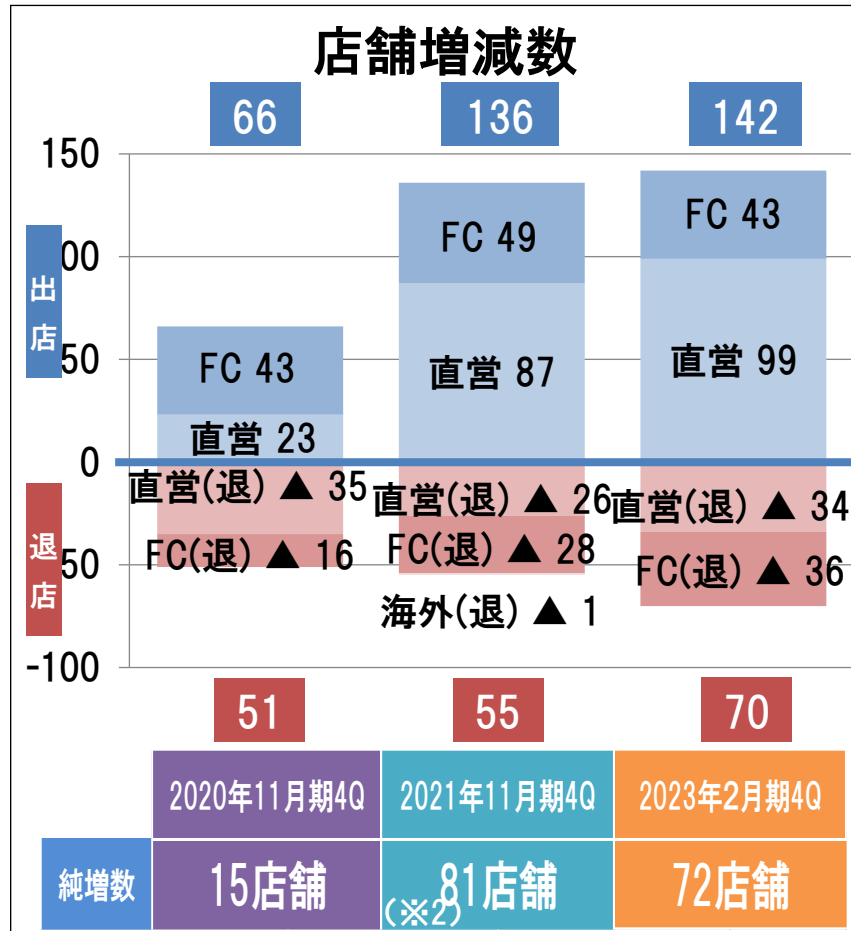


(単位:百万円、%)

	2020年11月期 4Q		2021年11月期 4Q		2023年2月期 4Q	
	金額	率	金額	率	金額	率
売上高	73,034	100.0	73,130	100.0	73,716	100.0
売上総利益	28,002	38.3	27,987	38.3	27,823	37.7
営業利益	1,558	2.1	964	1.3	390	0.5
経常利益	1,643	2.3	1,034	1.4	464	0.6
親会社株主に帰属 する四半期純利益	440	0.6	194	0.3	-175	-0.2
一株当たり 四半期純利益	27.65 円		12.21 円		-10.98 円	
会計期末 店舗数	1,065 店舗		1,180 店舗		1,252 店舗	

(※)決算期変更に伴い、当期は2021年12月1日から2023年2月28日までの15ヶ月決算であります

出退店数の状況



出店・リニューアル

- 新規出店: 142店舗 (計画: 185/通期)
直営99店舗(委託店含む(※1))、FC43店舗
- リニューアル: 26店舗

退店

- 70店舗 (計画: 65/通期)
直営34店舗、FC36店舗

【増減】直営+65店舗、FC + 7店舗、海外FC±0店舗

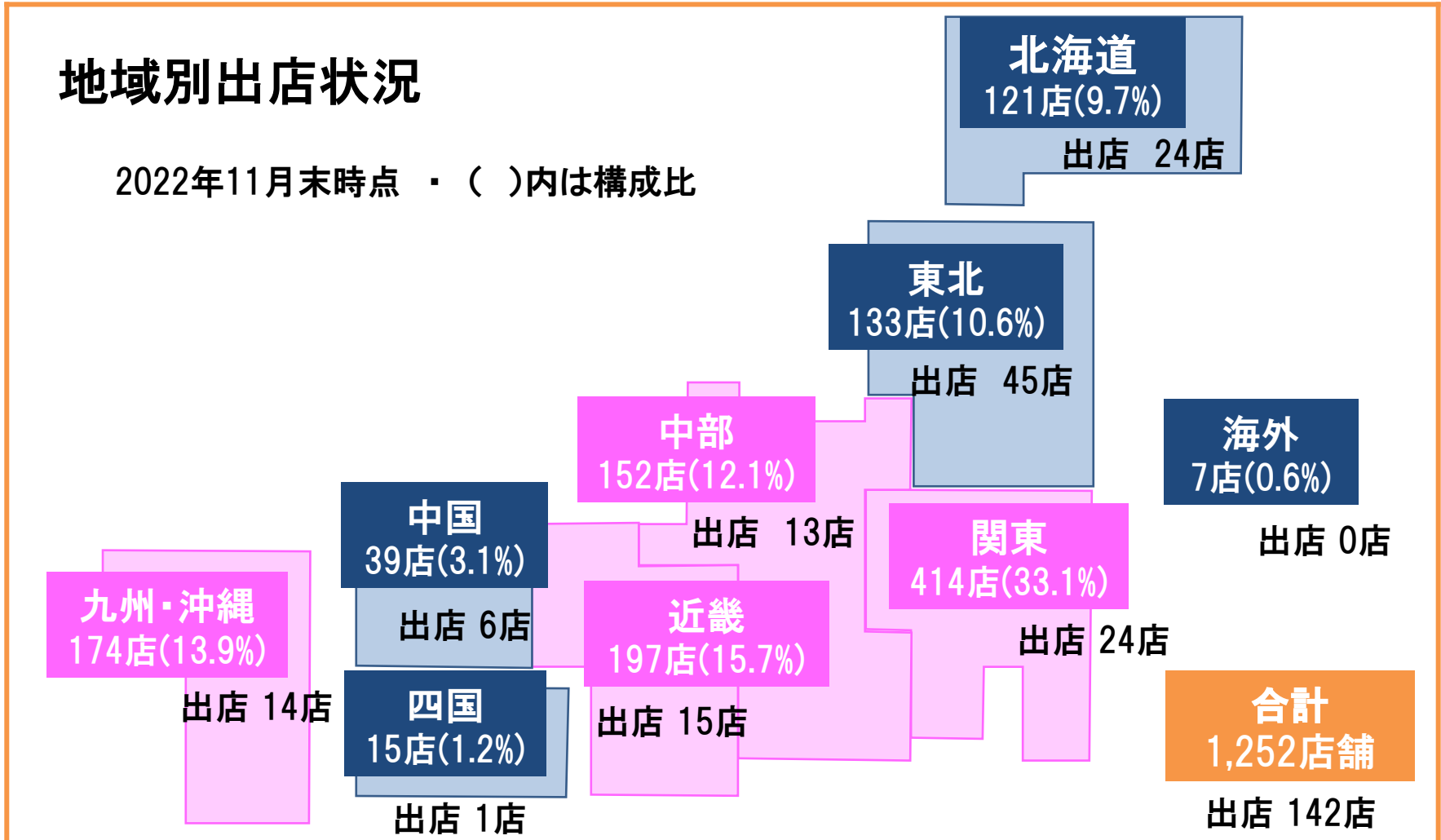
1,252店舗

(※1)2021年11月期2Qより売上高の拡大と収益体質の強化を目的とした、委託店舗の出店をスタートさせました。

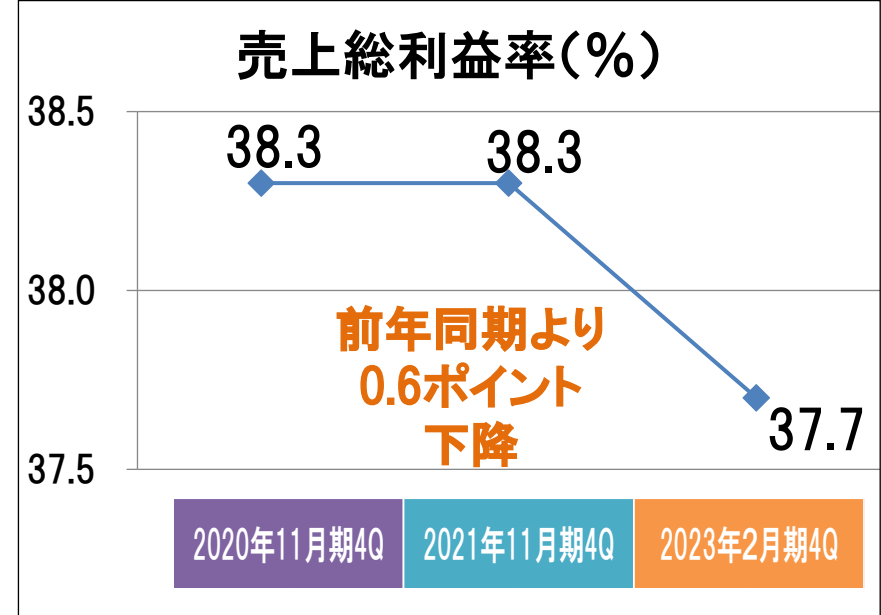
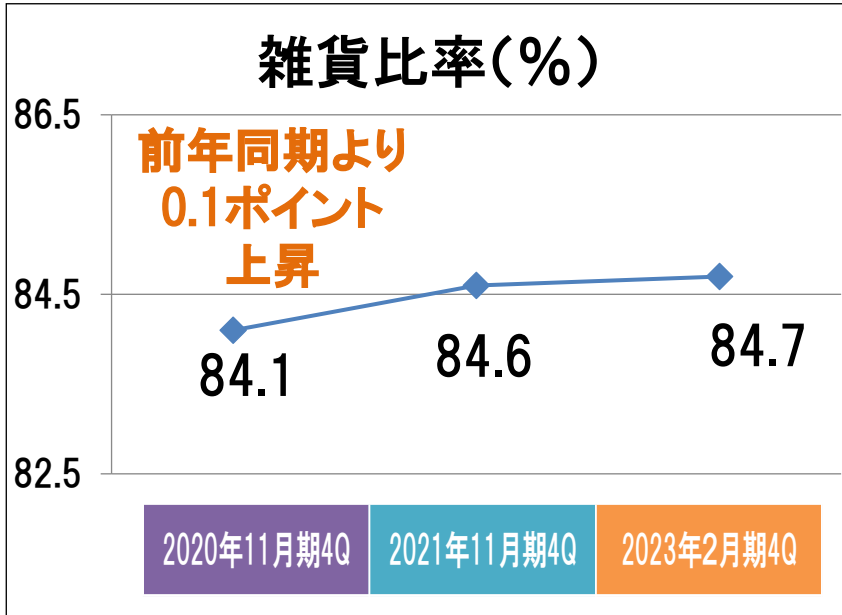
(※2)売場規模が小さかった為、開示店舗数に含めていなかった、キャンドウセレクト計34店を2021年3月末より、現在店舗数に含めております。キャンドウセレクトとは、日用消耗品を中心に厳選した品揃えの店舗になります。

地域別出店状況

2022年11月末時点 ・ ()内は構成比



売上総利益の内訳



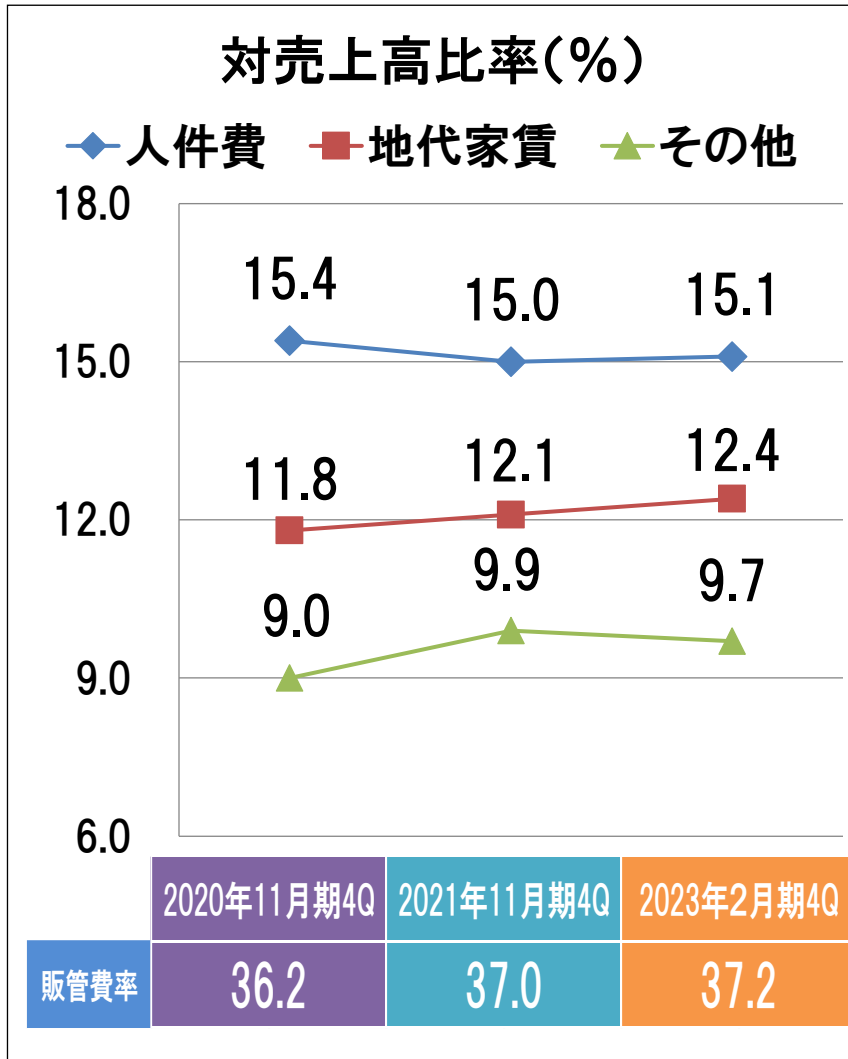
雑貨比率の変動

- 他価格帯商品の売上比率増加

売上総利益率の変動

- 米国の金利上昇による急激な円安進行
- エネルギー価格や原材料の上昇

販管費の内訳



人件費

- ・外注人件費(人材派遣)の増加

地代家賃

- ・前年の賃料減免措置等の反動及び店舗増により比率が増加

その他販管費

- ・水道光熱費の増加
- ・クレジット等手数料、母店販促費増

販管費率+0.2ポイント

設備投資の状況

キャッシュレス対応・自動釣銭機導入を継続しつつも新規出店を推進しました。また、イオングループ参入によるシナジー創出へ向けたWAON導入も進めております。

(単位:百万円)

	2021年11月期4Q	2023年2月期4Q	増減
設備投資額	1,922	973	▲ 949
減価償却費	1,210	1,160	▲ 49

◆主な設備投資内訳

(単位:百万円)

	2021年11月期4Q	2023年2月期4Q	増減
直営新規出店・ 既存店リニューアル等	1,495	(※) 915	▲ 579
情報システム関連投資	426	57	▲ 369
合計	1,922	973	▲ 949

(※)1案件あたりの設備投資金額抑制施策効果も含む

連結貸借対照表の状況

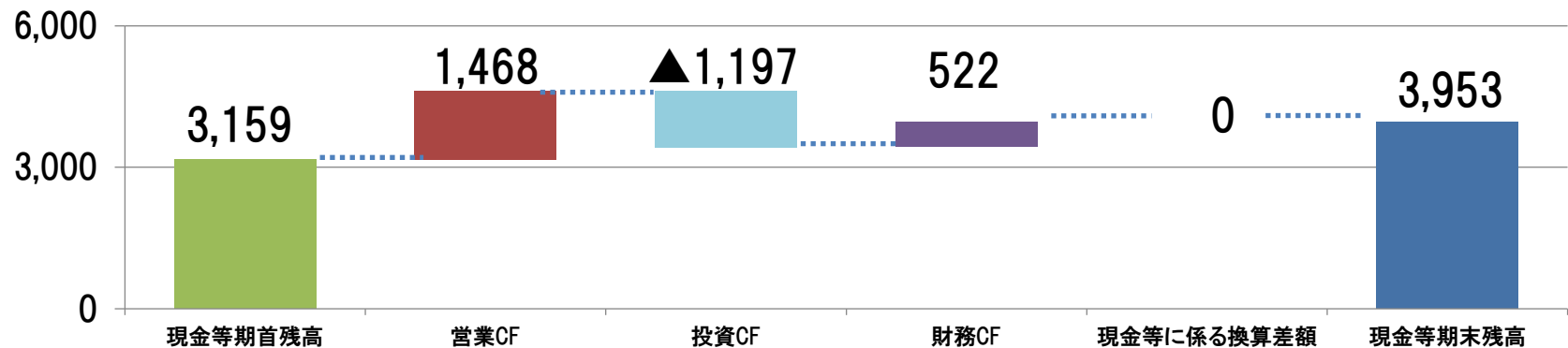
(単位:百万円)	2021年 11月期	2023年2月期 4Q	前年 増減額		2021年 11月期	2023年2月期 4Q	前年 増減額
流動資産合計	13,270	15,440	2,169	流動負債合計	10,816	12,630	1,813
現金及び預金	3,159	3,953	794	仕入債務	8,984	10,006	1,022
売上債権・未収入金	2,944	3,342	397	その他流動負債	1,832	2,623	791
商品	6,525	7,488	963	固定負債合計	4,712	4,918	206
その他流動資産	641	656	14	退職給付に係る負債	2,326	2,512	186
有形固定資産合計	6,880	6,541	▲ 339	資産除去債務	1,801	1,861	60
建物及び構築物	5,590	5,450	▲ 140	負ののれん	209	171	▲ 38
その他有形固定資産	1,290	1,091	▲ 198	その他固定負債	375	373	▲ 2
無形固定資産合計	545	348	▲ 197	負債合計	15,529	17,548	2,019
投資その他の資産合計	7,347	7,383	36	資本金	3,028	3,028	0
敷金及び保証金	5,488	5,521	33	資本剰余金	3,082	3,089	6
その他投資その他の資産	1,859	1,862	2	利益剰余金	7,606	7,159	▲ 446
固定資産合計	14,773	14,273	▲ 499	自己株式	▲ 1,155	▲ 1,138	16
資産合計	28,044	29,713	1,669	その他の包括利益累計額	▲ 47	26	73
				新株予約権	0	0	0
				純資産合計	12,515	12,165	▲ 349
				負債純資産合計	28,044	29,713	1,669

※対前年増減額が大きな項目について、その主なものを以下に記載

- ① 現金及び預金の増加794百万円
- ② 商品の増加963百万円
- ③ 短期借入金の増加800百万円、電子記録債務の増加642百万円

連結キャッシュ・フローの状況

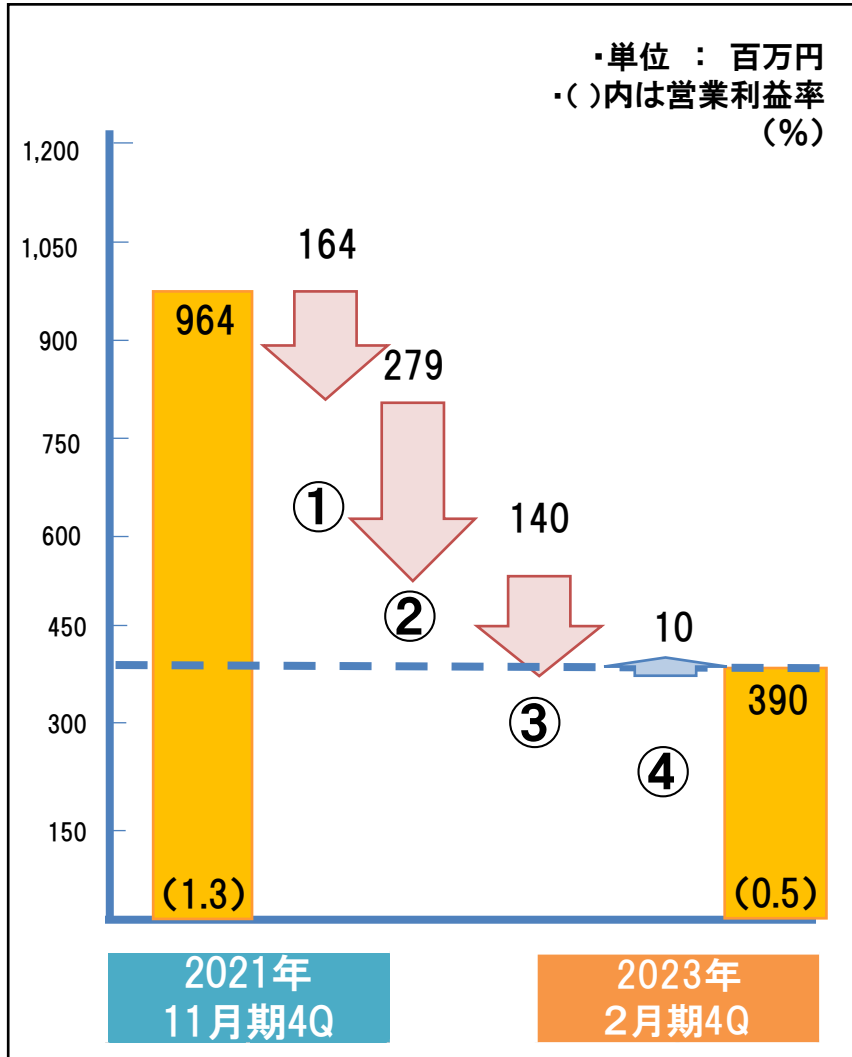
(単位:百万円)	2021年11月期4Q	2023年2月期4Q	増減
営業キャッシュ・フロー	1,172	1,468	296
投資キャッシュ・フロー	▲ 2,023	▲ 1,197	826
財務キャッシュ・フロー	▲ 272	522	794
現金・現金同等物換算差額	0	0	0
現金・現金同等物期首残高	4,283	3,159	▲ 1,123
現金・現金同等物期末残高	3,159	3,953	794



●営業キャッシュ・フローの内訳●

税金等調整前当期純利益160百万円に対して、
 加算項目は減価償却費1,160百万円、仕入債務の増加1,022百万円
 減算項目は未収入金の増加402百万円、法人税等の支払額589百万円等

営業利益 前年差異分析



増加要因

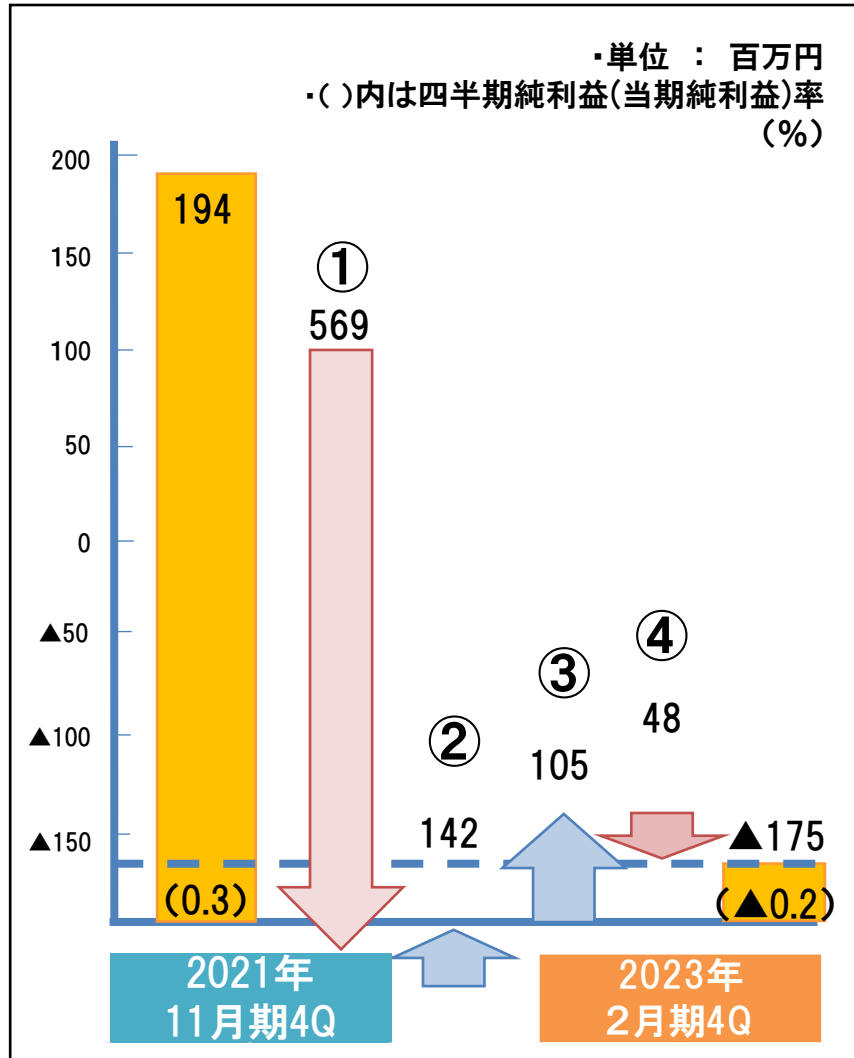
- ④ その他販管費減少による部分
→10百万円

減少要因

- ① 売上総利益減少による部分
(売上減×売上総利益率)
→164百万円
- ② 地代家賃増加による部分
→279百万円
- ③ 人件費増加による部分
→140百万円

573百万円の減少

四半期純利益(当期純利益) 前年差異分析



増加要因

- ② 特別損失減少による部分
→142百万円
- ③ 法人税等減少による部分
→105百万円

減少要因

- ① 経常利益減少による部分
→569百万円
- ④ 特別利益減少による部分
→48百万円

370百万円の減少

(単位:百万円、%)

	2023年2月期 業績予想		2023年2月期 業績予想(修正)		前回 対比
	金額	率	金額	率	
売上高	96,200	100.0	92,700	100.0	96.4
営業利益	1,240	1.4	375	0.4	30.2
経常利益	1,330	1.5	470	0.5	35.3
親会社株主に帰属 する当期純利益	235	0.3	-460	-0.5	—

2023年2月期の取り組み

進捗報告

方針：イオングループとの協業によるお客さま満足の最大化

「販路の拡大」

- ・従来の出店形態を推進しつつ新たな販路も開拓することでお客さまの利便性を高める

「商品・ブランドの差別化」

- ・お客さまから支持される商品の追求とイオングループとの調達力を活かした新たな100円ショップの創造

「企業価値の向上」

- ・イオングループとのシナジー創出及びデジタルシフトへの推進による収益性と企業価値の向上

3つの戦略でイオングループとのシナジーを最大化

2023年2月期の具体的取り組み：I

『販路の拡大』

イオンモール福岡店 (福岡県・2022年11月17日オープン・170坪)



2023年2月期の具体的取り組み：Ⅱ

『商品・ブランドの差別化』

① 100円商品ラインナップの拡充

ほのぼの2コラボ



モリスネイルシール



木製汽車シリーズ



Snowmanシリーズ



② 他価格帯商品の拡充

オリジナルディズニーグッズ
(200~800円)



JACKALOPEアクセシリーズ
(300円)



美容家電
(500~1,800円)



造花
(200~800円)



③ 環境に配慮した商品

クラフトハンドルバッグ



再生紙使用ペーパータオル



FSC認証紙レンジカップ



手さげ付きエコポリ袋



イオングループは、環境問題やエコに対する取り組みを重要視しています。有名な取り組みとして、木を植える植樹活動があり、日本のみならずアジア各国でも展開しています。

また、「環境循環」への取り組みとして、「PB商品に環境配慮素材を使用、廃プラスチック・食品廃棄物等を再利用へ」と掲げています。当社も、この方針に則って、環境に配慮した商品開発をして参ります。

・フォロワー数は、2022年11月現在、78万人超

・国内企業ランキングは、67位(対象10,000社超)

・お洒落な画像による商品活用シーン提案



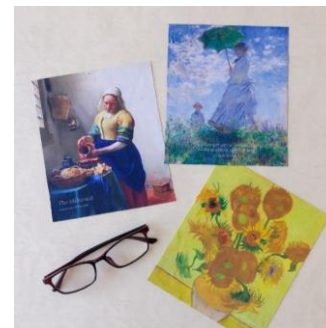
オリジナル
ディズニーグッズ



デコ用
フレイクシール



名画シリーズ



ハロウィン



- ・イメージ訴求のInstagramに対し、情報量を優先する Twitterですみ分け
- ・メディアで取り上げられた商品もリツイート
- ・推し活アイテムなどTwitterユーザーに親和性の高い商品を紹介

初音ミク2シリーズ



コジコジラボ



サンリオダイカット
ジップバッグ



推しカラー
ジップバッグ



感染防止対策に細心の注意を払い、開催をしております。
(2022年9～11月で41回開催)



イオンモール茨木店(10月)



イオンモール各務原店(11月)

2023年2月期の具体的取り組み：Ⅲ

『企業価値の向上』

企業価値の向上 進行中の案件(一例)

利便性向上	WAON導入による「イオン生活圏における“つながり”の創出」への参入
コスト低減	什器・備品などをイオングループとの共同仕入れで調達
先行投資	IT・デジタル化によるシステムの刷新

【 ご注意 】

本資料に掲載されている株式会社キャンドウの現在の計画、見通し、戦略、認識、評価、想定等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。これらの情報は、現在入手可能な情報から株式会社キャンドウの経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、様々な重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみにより全面的に依拠することはお控えいただくようお願いいたします。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願い申し上げます。